

NPO法人ありんこに
 関する詳しい情報は
 公式ホームページ
 arinnko.sakura.ne.jp
 にて公開中！！

ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部
 編集責任者 一戸 由佳
 住所 青森県弘前市大字富栄
 字笹崎80-1
 電話 0172-96-2774
 Fax 0172-55-9591

事業所閉鎖の措置について 感染症の怖さを痛感。再発防止にむけて。

入学式を終えたばかりの年度初め、児童デイサービスやよいのあかりは施設開所以来初めて事業所閉鎖(休業)という危機を迎えました。

当事業所をご利用いただいている利用者様、保護者の皆さまには、急な閉鎖のお知らせ等により、多大なるご不便とご迷惑、ご心配をおかけして、本当に申し訳ございませんでした。



例年通り職員たちは2度の予防接種を行い、日々感染症の予防に努めてきたつもりでした。しかし今回の事業所の閉鎖は、改めて、これまで自分たちが行ってきた感染症対策を見直すきっかけともなりました。

季節性インフルエンザの流行は、今シーズンは例年より早く訪れ、3月には一度下火になったように思われました。しかしワクチンの接種から時間がたち、効果が薄れてきた4月になり再び感染の数が増えはじまりました。

事業所では通常、利用者が帰った後一斉に通常清掃を行います。その中には施設内の消毒や換気、使用した物品などの殺菌消毒などが含まれています。

一般的には清掃と消毒で十分だと考えられていましたが、今回の感染の拡大を受けて、利用者様に感染が確認された時点で、更に、送迎車両内の殺菌消毒を徹底すること。そして日々接触する職員が、新たな保菌者となり感染を広げないように、マスクをし、手洗い、手指消毒を確実にすること。また口腔内のウイルスを上咽頭付近に入れないため(インフルエンザウイルスが感染する場所)、水分補給をこまめに行うこと。自分の身を自分で守る意識を持つことなどが確認されました。

感染症の予防対策は、これで完璧100パーセント大丈夫ということはありませんが、少しでもリスクを下げ、予防の意識を徹底し、感染を仕方がなかったことにせず、皆さまがいつでも安心して利用できる事業所を目指していきます。そのために、職員には、常に新しい情報を取り入れる能動的な姿勢と、意識の高さが求められますが、研修などを通じて養っていきたいと思っています。今回のことを、私たちの教訓として、風化させることなく、今後の活動に活かしていくことができるように、しっかりと記録を残して、常に振り返ることができるようにしていきます。これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。



お知らせ・掲示板

ありんこまつり開催決定

第7回ありんこまつり

日時:

平成30年7月7日(土)

午後5:30~7:30

場所:

やよいのあかり敷地内

内容:

販売・縁日・ステージ等

※雨天決行です

ありんこまつりボランティア募集

ありんこまつりのボランティアを募集します。ありんこまつり当日、販売や縁日等のお手伝いをしていただくボランティアスタッフを募集します。お手伝いいただける方は、詳細についてお知らせいたしますので、ご連絡ください。

連絡先:0172-96-2774

児童デイサービスやよいのあかり



第6回NPO法人ありんこ定期総会は、平成30年5月20日(日)午前10:30から、児童デイサービスやよいのあかり施設内にて行います。正会員の方には別途ご案内を差し上げますのでよろしくお願いいたします。

理事長のつぶやき

何故ルールを守るのか？

最近、エライ人たちがルール違反をして謝罪をしている場面をよく目にする。

ルール(決まり事)は、そもそも私たち人間が集団の中で円滑に活動していくために考えられた約束事である。

だから、時代の流れの中では、昔からあるルールに違和感を感じたり、合理性に欠けると思われることもある。

しかし、だからといって、勝手にルールを無視して自分たちに簡便な方法を進めることは良いことではない。

ルールに不具合が生じたり、理不尽だと思ったら、正当な手続きを経てルールを見直し、改正しなければならない。国で言うなら憲法改正だ。実際に、そのルールの下で活動する人たちが、納得して守っていくことができるように、また、その時代の倫理観や価値観をふまえて決定していくのが理想だろう。つまりルールは生きているのだ。

私たちは義務教育の中で、ルールを守ることを学んできた。しかし、何故ルールを守らなければならないかを学んだだろうか？私は記憶にない。けれど、考えてみれば答えは明白である。理由はないのだ。ルールは、ルールだから守る。

疑問があれば議論する。変更する努力をする。変更できなければ守るしかない。そして、それが守れないのであれば、その集団を離れる以外、選択肢はないだろう。辞めるしかないのだ。

世の中の人がこの単純なルールを守ることができれば、日々のニュースで謝罪会見が繰り返されることはなくなるだろう。